

2024 年度 2・3・4 年次アンケート

本学では新年度のオリエンテーション時に、新 2 年次、新 3 年次、新 4 年次を対象とした「教育・学生生活に関するアンケート調査」（以下「在学生アンケート」と表記）を行っている。但し、コロナ禍中であった 2020～2022 年度は、オリエンテーションをオンラインで行っていたため、各授業等で実施していた。前年度より対面で行う専攻が増えたため、オリエンテーション時での実施に戻している。このアンケート調査は、在学生が本学の教育内容や学生生活についてどのような意識を持っているのか、また本学学生の学習実態などを明らかにすることで、今後の教育改善に活かすことを目的としている。本報告書では、主な項目の分析結果を中心に報告する。なお、回答人数が少なくかつ旧課程の専攻である史学専攻（3 名）、言語科学専攻（1 名）は、分析の対象から除いた。

調査概要は以下の通りである。

目的：東京女子大学に通っている学生の学習及び大学生活に関する意識・実態調査

方法：Web 調査

対象：東京女子大学に在籍している 2～4 年次学生、2900 名（5 月 1 日時点、休学者は含む）

（うち：2 年次学生 952 名、3 年次学生 1044 名、4 年次学生 904 名）

調査期間：2024 年 3 月 19 日～2024 年 7 月 30 日

有効回答数：2294 名

（うち：2 年次学生 854 名、3 年次学生 793 名、4 年次学生 647 名）

有効回答回収率：79.1%

（うち：2 年次学生 89.7%、3 年次学生 76.0%、4 年次学生 71.6%）

調査項目：2022 年度までに実施してきた調査結果を踏まえ、「学習」、「学生生活」、「図書館」、「課外・学外の活動」、「その他」などの項目で構成している。

本報告書では、2 年次、3 年次、4 年次などの表記が出てくるが、在学生アンケートは、前年度末～今年度初めに実施しているため、例えば、2 年次の授業に対する満足度は、当該学生が 1 年次であった時の授業の満足度を示す。同様に、3 年次の授業に対する満足度は当該学生が 2 年次であった時の授業の満足度、4 年次の授業に対する満足度は当該学生が 3 年次であった時の授業の満足度のことである。

また、本報告書で用いるデータは全数調査によるものなので有意確率（p 値）は報告せず、平均値・標準偏差および効果量（ η^2 ）のみを報告する。なお、 η^2 については、Cohen(1988)の基準 $\eta^2 = .01$ （small）、 $\eta^2 = .06$ （medium）、 $\eta^2 = .14$ （large）を用いた。

なお、参考のため過去 5 年間の回収率（2～4 年次学生全体）を表 1 に示しておく。

表 1 年度別に見た 2～4 年次アンケートの回収率

2019 年度	2020 年度 (Web 調査)	2021 年度	2022 年度 (Web 調査)	2023 年度 (Web 調査)	2024 年度 (Web 調査)
84.9%	70.0%	82.8%	81.5%	82.5%	79.1%

(1) 授業に対する満足度について

「授業全般」、「全学共通カリキュラムの科目の授業」、「学科科目（専門）の授業」の3つのカテゴリー別に、過去1年間の学修を通じての授業の満足度を尋ねたところ、表2のような結果となった。「大変満足している」、「満足している」、「どちらかと言えば満足している」の3つを合計した割合が全てで8割を超えていることから、授業に対する満足度は全般的に高いと言える。特に「授業全般」、「学科科目（専門）の授業」では、9割を超えた。

表2 授業に対する満足度

	全く満足 していない	満足 していない	どちらかと 言えば満足 していない	どちらかと 言えば満足 している	満足 している	大変満足 している	履修 していない
	% (n)	% (n)	% (n)	% (n)	% (n)	% (n)	% (n)
授業全般	0.2 (4)	1.5 (32)	7.0 (152)	30.5 (665)	50.3 (1098)	10.6 (232)	
全学共通 カリキュラムの 科目の授業	0.2 (5)	2.0 (44)	6.5 (142)	29.8 (650)	45.8 (999)	14.2 (309)	1.6 (34)
学科科目 (専門)の授業	0.3 (6)	1.9 (42)	5.9 (129)	22.2 (485)	46.0 (1004)	22.8 (497)	0.9 (20)

注：各項目について欠損値（111人）を除いて集計した結果である。

授業に対する満足度を専攻別、学年別に比較するため、まず「大変満足している」=6、「満足している」=5、「どちらかと言えば満足している」=4、「どちらかといえば満足していない」=3、「満足していない」=2、「全く満足していない」=1と点数化し、それぞれの項目の平均値および標準偏差を算出した（表3～表8）。

表3～表5は、専攻別に見た授業に対する満足度の平均値および標準偏差である。全てのカテゴリーにおいて、全ての専攻で授業満足度の平均値が4.0を超えた。効果量は「学科科目（専門）の授業」が他より大きいものの、いずれも小さく、専攻による大きな違いは見られなかった。

表3 専攻別に見た「授業全般」に対する満足度

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
国際英語	4.51	0.899	270	$\eta^2=.028$
哲学	4.90	0.681	98	
日本文学	4.70	0.813	206	
歴史文化	4.84	0.837	207	
国際関係	4.60	0.833	274	
経済学	4.62	0.756	175	
社会学	4.63	0.798	120	
コミュニティ構想	4.48	0.882	130	
心理学	4.68	0.804	206	
コミュニケーション	4.55	0.831	318	
数学	4.53	0.754	77	
情報理学	4.23	0.900	102	
合計	4.61	0.836	2183	

表4 専攻別に見た「全学共通カリキュラムの科目の授業」に対する満足度

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
国際英語	4.50	0.984	269	$\eta^2=.013$
哲学	4.75	0.821	96	
日本文学	4.65	0.898	205	
歴史文化	4.78	0.900	205	
国際関係	4.70	0.892	268	
経済学	4.65	0.945	173	
社会学	4.78	0.797	118	
コミュニティ構想	4.61	0.862	128	
心理学	4.63	0.819	202	
コミュニケーション	4.62	0.875	311	
数学	4.64	0.869	74	
情報理学	4.36	0.927	100	
合計	4.64	0.895	2149	

表5 専攻別に見た「学科科目（専門）の授業」に対する満足度

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
国際英語	4.64	1.083	269	$\eta^2 = .048$
哲学	5.26	0.737	98	
日本文学	4.98	0.915	205	
歴史文化	5.03	0.897	207	
国際関係	4.76	0.947	270	
経済学	4.87	0.851	174	
社会学	4.84	0.837	118	
コミュニティ構想	4.64	0.968	129	
心理学	5.03	0.848	204	
コミュニケーション	4.77	0.857	311	
数学	4.61	0.876	77	
情報理学	4.27	1.019	101	
合計	4.82	0.937	2163	

表6～表8は、学年別に見た授業に対する満足度の平均値および標準偏差である。授業満足度に関する全てのカテゴリーにおいて、4年次生の満足度が最も高くなった。しかし、効果量を見ても分かるように、学年間に大きな違いは見られない。

表6 学年別に見た「授業全般」に対する満足度

学年	平均値	標準偏差	人数	効果量
2年次	4.54	0.830	817	$\eta^2 = .010$
3年次	4.57	0.839	750	
4年次	4.75	0.827	616	
合計	4.61	0.836	2183	

表7 学年別に見た「全学共通カリキュラムの科目の授業」に対する満足度

学年	平均値	標準偏差	人数	効果量
2年次	4.58	0.906	812	$\eta^2 = .006$
3年次	4.61	0.882	739	
4年次	4.75	0.890	598	
合計	4.64	0.895	2149	

表8 学年別に見た「学科科目（専門）の授業」に対する満足度

学年	平均値	標準偏差	人数	効果量
2 年次	4.74	0.901	813	$\eta^2=.007$
3 年次	4.79	0.946	739	
4 年次	4.94	0.963	611	
合計	4.82	0.937	2163	

次の図1～図3では、授業満足度について、学科別の違いを学年別に示す。すべての項目で2年次より4年次の得点が高い傾向があった。

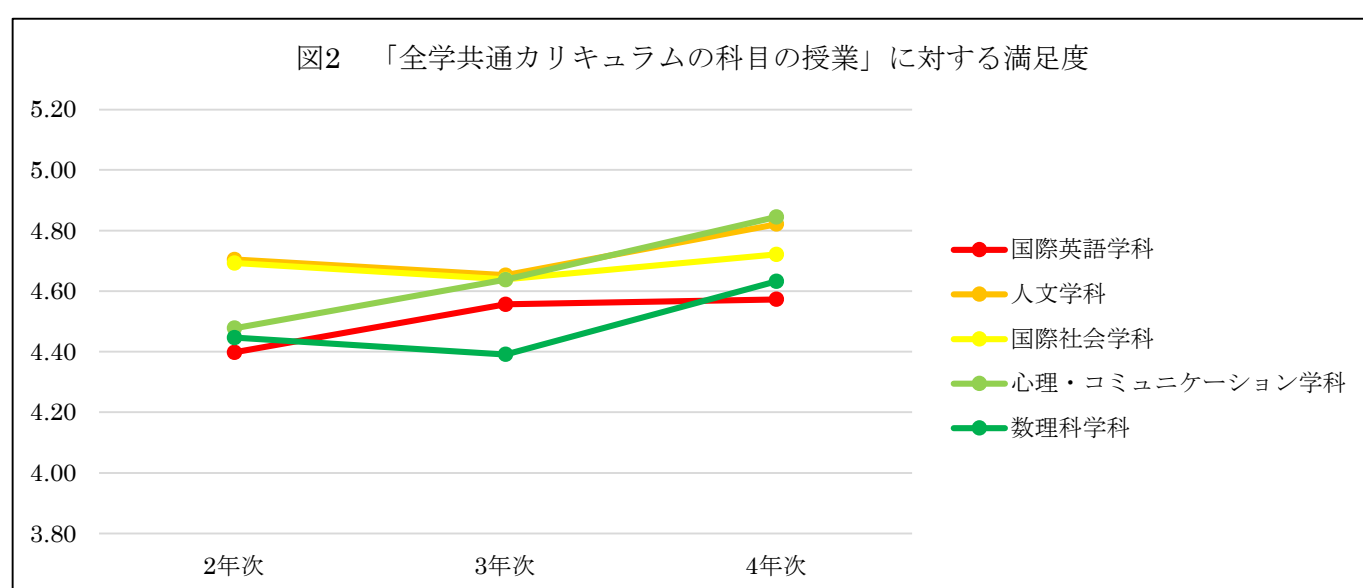
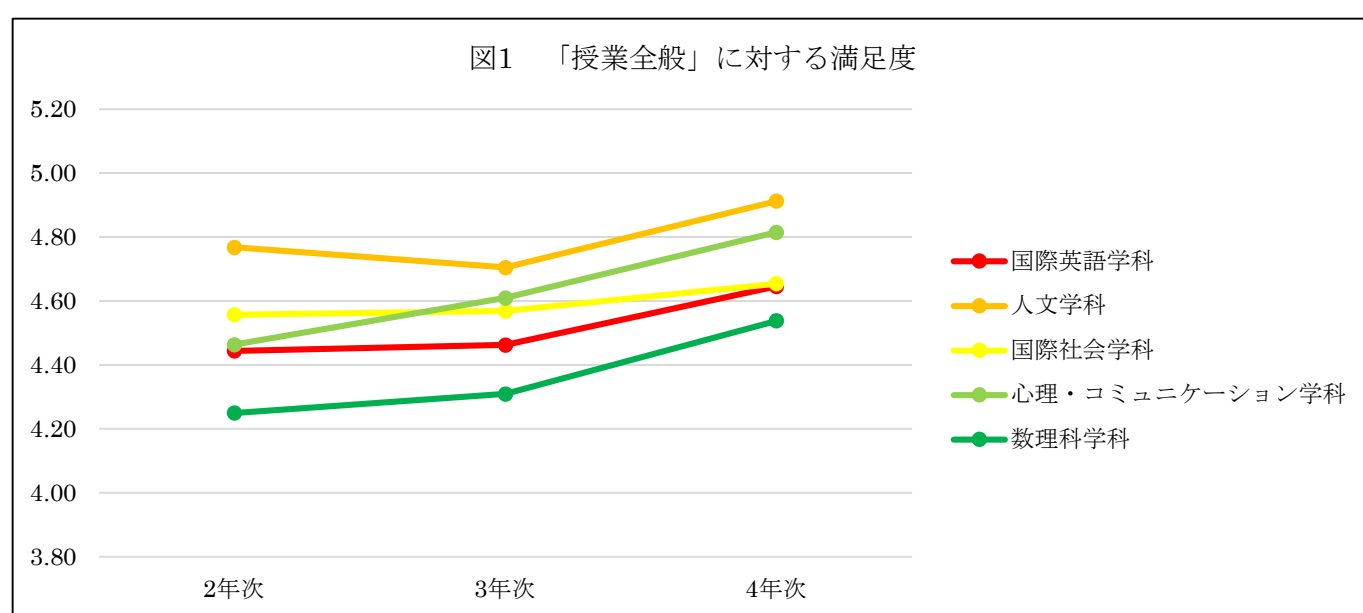
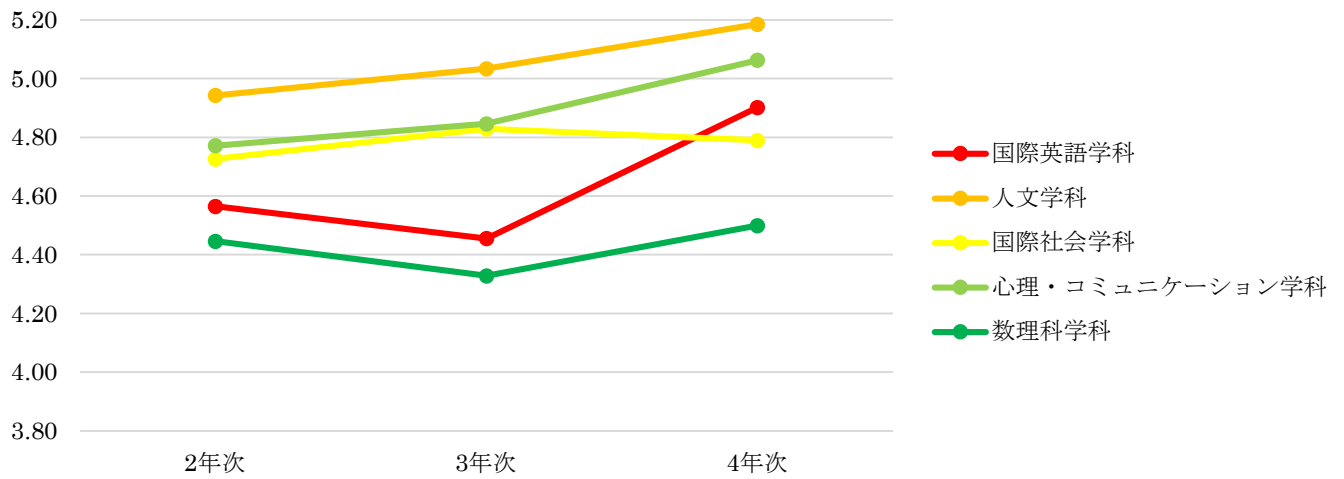


図3 「学科科目（専門）の授業」に対する満足度



(2) 身についたスキルに関する項目の集計・分析結果

「昨年1年間の学びを通じてどのようなスキルを身につけることが出来たと思うか」を調べるため、「学術的な文献の読解力」、「人の話を聞いて、要点をつかむ力」、「プレゼンテーションにおいて、効果的に話をする力」、「ディスカッションにおいて、論理的に意見を述べる力」、「論理的でわかりやすい文章を書く力」、「わかりやすいプレゼンテーション資料を作成する力」、「パソコンで図表を作成する力」、「課題に応じて、適切な資料を収集する力」、「相手や場面に応じたコミュニケーション力」、「グラフや表で示された統計資料を理解する力」の10項目について、「全くそう思わない」(=1)から「非常にそう思う」(=6)の6件法で尋ねた。

その結果が図4である。「学術的な文献の読解力」、「人の話を聞いて、要点をつかむ力」、「論理的でわかりやすい文章を書く力」、「課題に応じて、適切な資料を収集する力」、「相手や場面に応じたコミュニケーション力」の5項目は、肯定的な回答(「非常にそう思う」「そう思う」「どちらかといえばそう思う」)が8割を超えた。残りの5項目においても7割を超えており、多くの学生がこれらのスキルを身につけることができたと考えている事が分かった。昨年度と比べると、全ての項目で肯定的な回答の割合が増加しており、中でも「相手や場面に応じたコミュニケーション力」、「グラフや表で示された統計資料を理解する力」が伸びている。それぞれ4.1ポイント、3.5ポイントの増加が見られた。

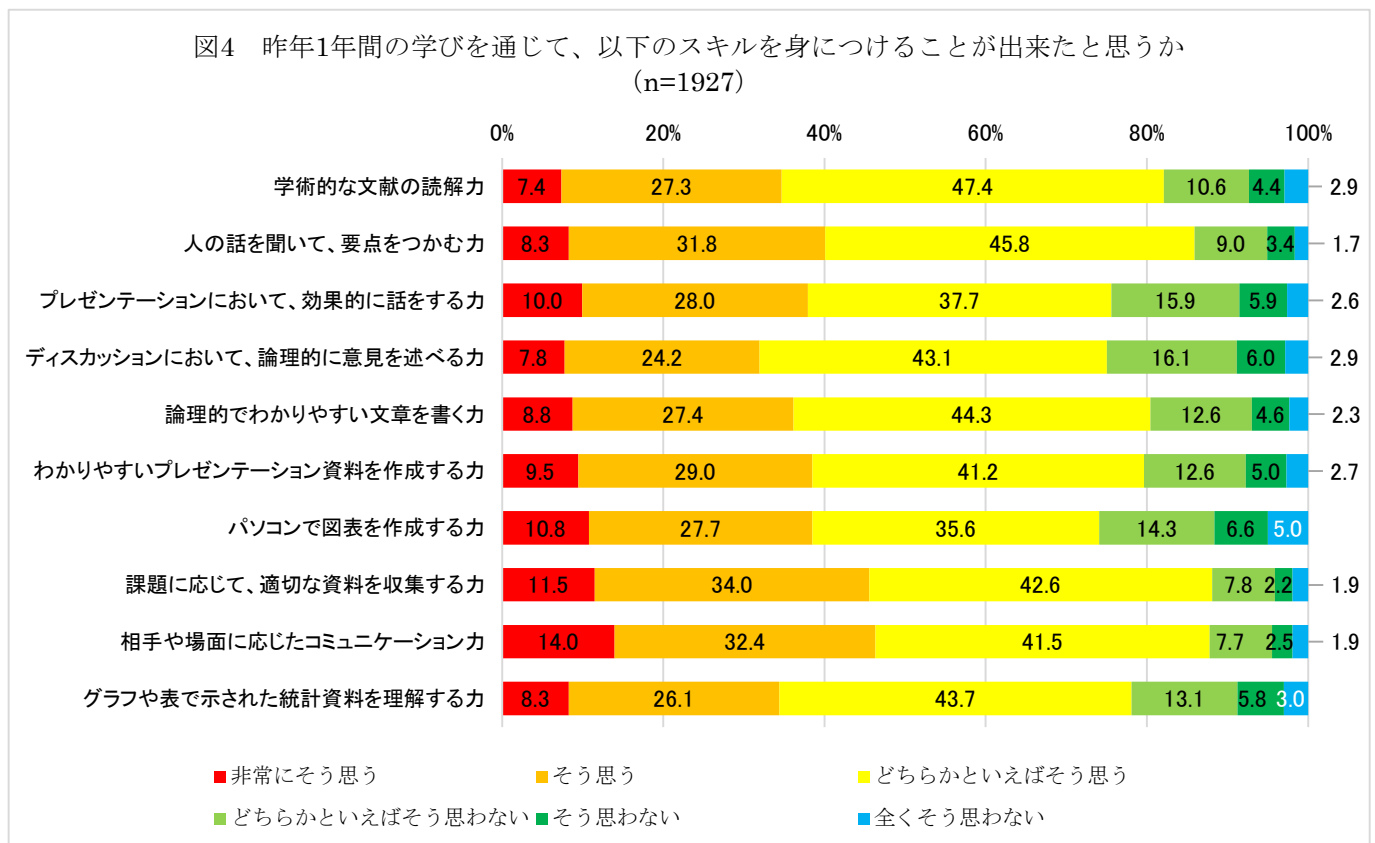


図4に示す10項目について、得点を合計しそれを項目数で割った項目平均を算出し、「スキル総合得点」(M=4.19、SD=.825、最大=6、最小=1；因子分析で一次元性も確認。 $\alpha = .920$)として、以降の分析に使用した。

専攻別にスキル総合得点を見ると（表 9）、平均値が最も高い専攻で $M=4.30$ 、最も低い専攻で $M=3.94$ となった。効果量は小さく（ $\eta^2=.007$ ）、専攻間におけるスキル総合得点の違いは大きくない。全体の平均値は前年度よりも 0.09 ポイント上昇しており、スキルの向上を実感している学生が若干増えている。

表 9 専攻別に見た「スキル総合得点」

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
国際英語	4.30	0.884	223	$\eta^2=.007$
哲学	4.16	0.809	86	
日本文学	4.12	0.755	177	
歴史文化	4.18	0.866	197	
国際関係	4.19	0.878	249	
経済学	4.20	0.607	155	
社会学	4.26	0.818	107	
コミュニティ構想	4.15	0.870	115	
心理学	4.20	0.783	184	
コミュニケーション	4.20	0.836	265	
数学	3.94	0.934	73	
情報理学	4.13	0.799	96	
合計	4.19	0.825	1927	

学年別にスキル総合得点を見ると（表 10）、平均値は 4 年次、2 年次、3 年次の順で高い。効果量は小さく（ $\eta^2=.008$ ）、学年間における違いは大きくない。

表 10 学年別に見た「スキル総合得点」

学年	平均値	標準偏差	人数	効果量
2 年次	4.20	0.757	732	$\eta^2=.008$
3 年次	4.10	0.843	655	
4 年次	4.29	0.880	540	
合計	4.19	0.825	1927	

(3) 身についた能力に関する項目の集計・分析結果

昨年1年間の学びを通じて、以下の図5に示される14項目の能力を身につけることが出来たと思うかどうかを尋ねた結果を示す。13項目で肯定的な意見が7割を超えた。唯一超えなかった「率先してグループをまとめリードする力」も昨年度と比べると3.5ポイント上昇している。その他の項目も全てで肯定的な回答の割合が増加しており、中でも「数字やデータに基づいて物事を考える力」、「物事を偏りなく多角的に検討する力」が伸びている。それぞれ4.7ポイント、4.0ポイントの増加が見られた。

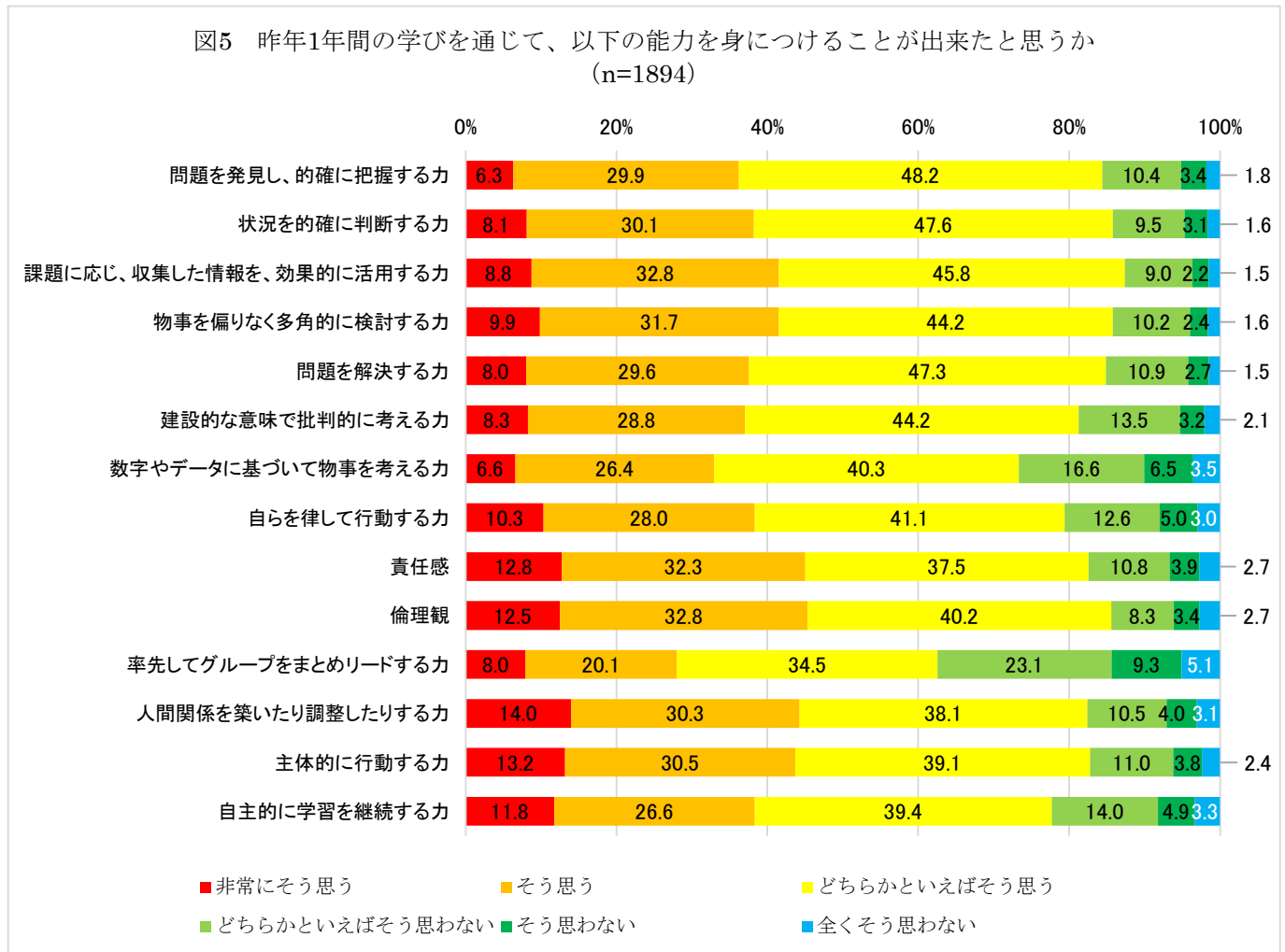


図5に示す14項目についても、得点を合計しそれを項目数で割った項目平均を算出し、「能力総合得点」(M=4.21、SD=.826、最大=6、最小=1、因子分析で一次元性も確認。 $\alpha=.948$)として以降の分析で用いた。

能力総合得点を専攻別に見ると（表 11）、最も高い専攻で $M=4.34$ 、最も低い専攻で $M=4.11$ であった。効果量は小さく（ $\eta^2=.008$ ）、専攻間の差は大きくない。

表 11 専攻別に見た「能力総合得点」

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
国際英語	4.34	0.900	217	$\eta^2=.008$
哲学	4.22	0.851	84	
日本文学	4.22	0.742	170	
歴史文化	4.23	0.865	196	
国際関係	4.29	0.814	246	
経済学	4.19	0.696	153	
社会学	4.23	0.843	106	
コミュニティ構想	4.11	0.910	114	
心理学	4.11	0.784	180	
コミュニケーション	4.14	0.856	261	
数学	4.18	0.814	72	
情報理学	4.14	0.758	95	
合計	4.21	0.826	1894	

能力総合得点を学年別で見ると（表 12）、平均値は 4 年次、2 年次、3 年次の順で高い。効果量は小さく（ $\eta^2=.009$ ）、学年間における違いは大きくない。

表 12 学年別に見た「能力総合得点」

学年	平均値	標準偏差	人数	効果量
2 年次	4.18	0.775	714	$\eta^2=.009$
3 年次	4.14	0.831	648	
4 年次	4.33	0.871	532	
合計	4.21	0.826	1894	

(4) 身についた技術に関する項目の集計・分析結果

図6は、昨年1年間の学びを通じて身につけることができたと思う技術13項目の分析結果である。「授業の要点を整理してノートにまとめる技術」と「卒業後のキャリアや進路について考える力」以外の項目で、肯定的な回答の割合が8割を超えた。昨年度と比べると、全ての項目で肯定的な回答の割合が増加しており、中でも「授業の要点を整理してノートにまとめる技術」、「収集した文献や資料の情報が、信頼できるものかどうかを的確に判断する力」、「特定のテーマに関する文献や資料を図書館で探す技術」、「相手に伝わるような論理的な構成のプレゼンテーションを行う技術」が伸びている。それぞれ4.6ポイント、4.4ポイント、4.3ポイント、4.0ポイントの増加が見られた。

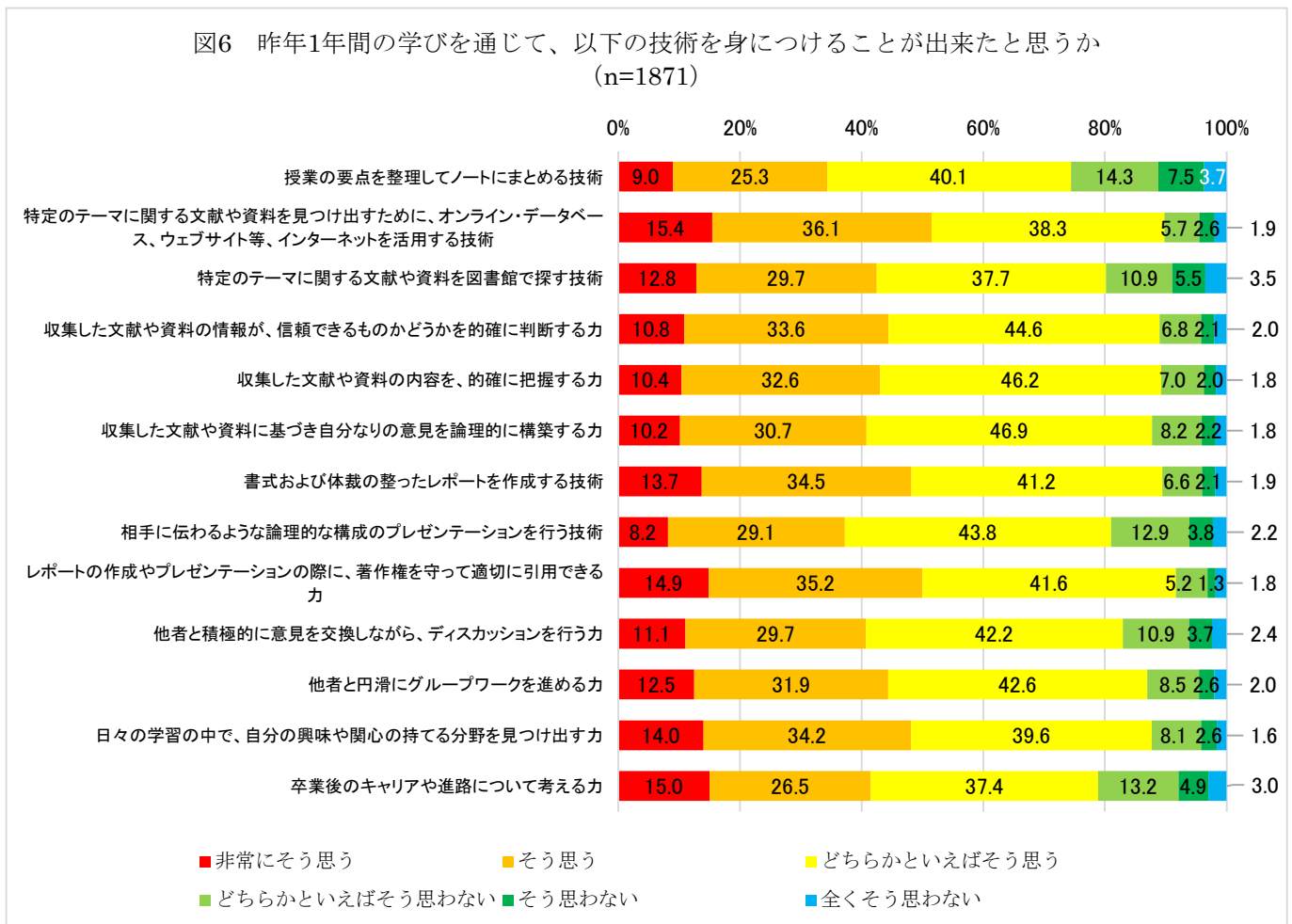


図6に示す13項目についても、得点を合計しそれを項目数で割った項目平均を算出し、「技術総合得点」(M=4.33、SD=.803、最大=6、最小=1、因子分析で一次元性も確認。 $\alpha = .941$)として以降の分析で用いた。

技術総合得点を専攻別に見ると（表 13）、最も高い専攻で $M=4.44$ 、最も低い専攻で $M=4.14$ であった。効果量は小さく（ $\eta^2=.011$ ）、専攻間の差はさほど大きくないことが分かる。

表 13 専攻別に見た「技術総合得点」

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
国際英語	4.44	0.884	216	$\eta^2=.011$
哲学	4.38	0.770	84	
日本文学	4.34	0.764	167	
歴史文化	4.44	0.843	196	
国際関係	4.38	0.829	241	
経済学	4.32	0.651	149	
社会学	4.36	0.838	106	
コミュニティ構想	4.26	0.867	112	
心理学	4.24	0.705	176	
コミュニケーション	4.30	0.816	258	
数学	4.14	0.779	71	
情報理学	4.17	0.751	95	
合計	4.33	0.803	1871	

技術総合得点を学年別で見ると（表 14）、平均値は 4 年次、2 年次、3 年次の順で高い。効果量は小さく（ $\eta^2=.006$ ）、学年間における違いは大きくない。

表 14 学年別に見た「技術総合得点」

学年	平均値	標準偏差	人数	効果量
2 年次	4.31	0.742	704	$\eta^2=.006$
3 年次	4.27	0.791	636	
4 年次	4.43	0.883	531	
合計	4.33	0.803	1871	